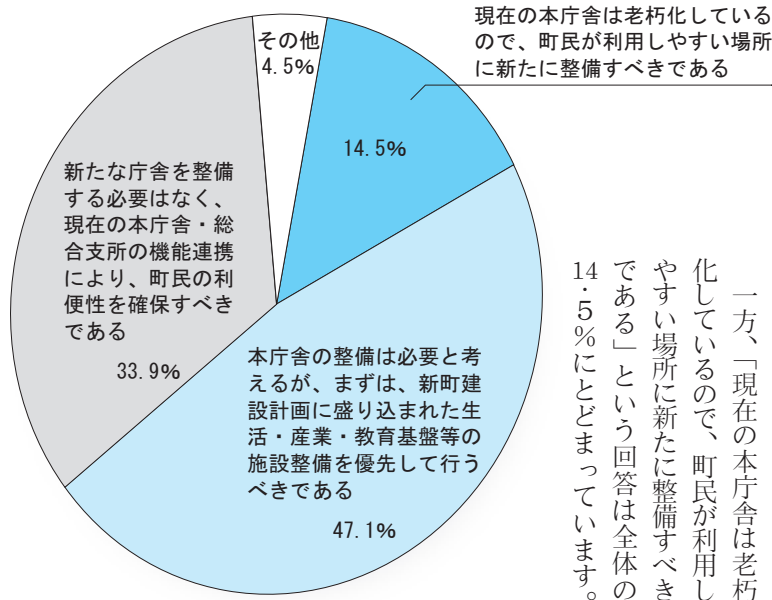


今後の本庁舎整備について（住民意向調査の結果）



今後の本庁舎整備の考え方
 ～今後の10年を考えた場合～

「本庁舎の整備は必要と考えるが、まずは、新町建設計画に盛り込まれた生活・産業・教育基盤等の施設整備を優先して行うべきである」（47・1％）という回答が最も多く、次いで「新たな庁舎を整備する必要はなく、現在の本庁舎・総合支所の機能連携により、町民の利便性を確保すべきである。」（33・9％）となっています。

一方、「現在の本庁舎は老朽化しているので、町民が利用しやすい場所に新たに整備すべきである」という回答は全体の14・5％にとどまっています。

今後の土地利用や開発のあり方

重要度（「非常に重要である」＋「ある程度重要である」）をみると、「森林については、志津川湾の豊かさやきれいな水の源となっていることから、間伐など適正な管理に努めるとともに、余暇活動の場としても活用を図っていく」（86・2％）が最も重要視されており、次いで「あまり利用されなくなった公共施設については、その目的を見直して、地域ニーズに沿った形で利活用されるようにしていく」（86・0％）となっています。

新たな開発等はあまり行わずに南三陸町の有する自然環境の保全・活用に努めるとともに、各種社会資本ストックの有効活用を図っていくべきであるという意識が反映されていると考えられます。

社会資本ストック：道路や港、水道、公園のように生活や経済活動に必要な公共施設などを社会資本といい、社会資本ストックはその整備量を指します。

今後の土地利用等について（住民意向調査の結果）

